



連合徳島

vol. 313

〒770-0942 徳島市昭和町3丁目35の1
徳島県労働福祉会館内
tel. 088 (655) 4105
fax. 088 (655) 4113
E-mail info@tokushima.jtuc-rengo.jp
http://tokushima.jtuc-rengo.jp/

発行：日本労働組合総連合会徳島県連合会

編集責任者 島 和 久



行動日程については
都度おしらせいたします。

連合徳島結成30周年記念誌を発売

働くことを軸とする安心社会
～まもる・つなぐ・創り出す～



2020年6月26日、連合徳島は2020年度地方委員会を新型コロナウイルス感染症の拡大予防の観点から、募集に伴う感染リスクの増大を防止するため書面開催とし、議長に中川孝文(自治労)を選出した。地方委員43名、役員28名、特別地方委員5名、女性特別地方委員18名が参加し、そのうち女性参加者は地方委員6名、特別地方委員1名で女性特別地方委員を含め、地方委員会に占める女性参加者の割合は28・7%となった。

各議案については、連合徳島規約第27条第2項による採決要件により、活動報告①2020年度上期一般活動報告・決算報告・会計監査報告、第1号議案…2020年春季生活闘争中間まとめ(案)、第2号議案…2020年度後期主要取り組み(案)、第3号議案…2020年度後期主要取り組み(案)、第4号議案…2021年度連合徳島役員補充(案)、第5号議案…2021年度連合徳島役員補充(案)、第6号議案…2021年度連合徳島役員補充(案)について、すべての議案が全会一致で承認された。

2020年度
連合徳島地方委員会

書面開催

全会一致で 後期主要課題の 方針を承認

Action/ 36

「女性のための連合全国」斉集中労働相談
ホットライン周知&時間外労働の上限規制、
最低賃金など訴え、徳島駅前デモ

連合徳島は、2020年6月4日、JR徳島駅前「クラシノソコアゲ応援団! R ENGO キャンペーン」駅前街宣行動を実施した。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、連合車からのアピールのみとし、ビラ配布活動は見送った。

冒頭、連合徳島新居会長からは、「新型コロナウイルスの影響が長引き、厳しい経済情勢下での取り組みとなった2020年春季生活闘争交渉状況」「最低賃金の引き上げの重要性」「男女平等月間の取り組みと働く女性のための職場環境改善の必要性」などについて訴えた。続いて、連合徳島女性委員

2020年7月14日、JR徳島駅前にて「クラシノソコアゲ応援団! R ENGO キャンペーン」駅前街宣行動を行い、各構成組織等から26名が参加し、街頭宣伝・ビラ配布活動を実施した。



道行く人にアピールする弁士ら



県民にビラとティッシュを配布

会藤田委員長からは、「近年、働く女性を取り巻く環境は変化しており、2016年4月に女性活躍推進法、2017年1月には改正育児・介護休業法が施行されるなど、働く女性に関わる法制度の整備が進んでおり、女性活躍推進およびハラスメント対策に関する法律も施行された。その一方で、職場内におけるパワハラ・セクハラ・マタハラなどに関する女性からの相談は増加傾向にある」として、労働相談での事例を踏まえ、6月15日、16日に開催予定の「女性のための連合全国」斉集中労働相談「ホットライン」について周知した。

最低賃金については「現在、徳島県の最低賃金は793円となっており、全国で下位から16位である。新型コロナウイルス禍において県内の企業、個人事業主が大変な危機に陥っていること、特に観光業界、交通、宿泊、飲食店、輸出入関連企業などの消費の落ち込みから売り上げが減少し社会全体の経済が縮小していることを理由に、経済界は今回の最低賃金の引上げに非常に消極的な態度である。そのことは一定理解するが、事業主以上にダメージを受けているのが最低賃金近傍で働く弱い立場の労働者や生活者である。連合徳島に寄せられている相談によると、経営者が「賃金保障の法律」「雇用調整助成金

連合の森

大里松原海岸に 100本の苗木(松)を植樹

2020年7月26日、連合徳島構成組織等から45名が参加し、海陽町大里松原海岸に「連合の森」として黒松の苗木100本を植樹した。



各構成組織等の協力で苗木を植樹

所確保等が困難となったこともあり、今年から、大里松原海岸が昨年の台風19号による高潮で冠水し、松林の約42・8%が枯れる被害が出ており、防災林としての役割がある大里松原海岸の再生に連合徳島・3地協が協力しているこの地での開催となった。

開催にあたって連合徳島新居会長は「台風災害で被害を受けた防潮林の再生は、南海トラフ地震に向けての防災面においても重要である。天候には恵まれなかったが頑張ってもらいたい」と挨拶。続いて斉藤集落長から「連合徳島の皆さんのご協力に感謝する。松林の再生は集落の願いであり、津波から集落を守るためにも早く松が育つてほしい」と挨拶した。

植樹は、雨の降る中でグループに分かれて、1メートルほどの黒松の苗木を5〜6メートル間隔で植えた。植樹の後、参加者全員で「連合の森」看板の前で記念写真を撮り、連合徳島ボランティアサポーターチームを代表して國見リーダーが

閉会挨拶し終了した。当初、海陽町の「まぜのおかおートキヤンプ場」において「連合の森」親子サマージャンプとして植樹の予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大予防の観点からキヤンプは中止し植樹のみ開催としたものであるが、大里集落の皆さんや海陽町、構成組織、3地協のご協力により無事に開催できたことに感謝したい。



連合徳島女性委員会の呼びかけに多くの構成組織および地協と組合員のご協力を得て、165枚の手作りマスクを集約することができた。VST養成講座の研修場所である徳島スロワークセンターあゆみ園に寄贈した。(2020年5月27日)



連合徳島は、飯泉徳島県知事に医療用マスク「サージカルマスク」1万枚を寄贈した。このマスクは、日本でのマスク不足を懸念して、1994年から友好交流を深めている中国丹東市総工会から連合徳島に寄付されたものである。(2020年5月13日)